



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.5

緊急事態宣言解除後、国内の移動制限も解禁されて、1カ月が過ぎようとしています。婦人会では、新型コロナウイルス感染症感染防止のためにできることはないかと絶えず検討しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

<結核予防婦人会秋田県連合会（能代市結核予防婦人会）>

<ニツ井支部>

4月2日にニツ井小学校からマスクの相談を受け、能代市ニツ井支部の会員12名が大小260枚のマスクを作成しました（写真1）。1日限りでの作業でしたが、同校家庭科室をお借りし、材料費は婦人会で負担して作成しました。

4月6日の始業式に全児童に配布されました。なお、マスク作りは継続中で、防災時に使用できるようストックを用意することになりました。

●ニツ井小へ手作りマスク寄贈

新型コロナウイルスの感染拡大でマスクの品薄状態が続く中、能代市ニツ井町の女性有志がニツ井小に全校児童分の手作りマスクを贈った。ゾウのイラストが施されたかわいらしい布製マスクで、6日の始業式に児童に配布する。



子どもたちのためにマスク作りに取り掛かる地域の女性有志たち（ニツ井小で、写真は同校提供）



写真1 北羽新報の4月5日（日）のニュース

<http://www.hokuu.co.jp/2020.kiji4/1-5.html>

紙版に掲載されました

〈能代支部〉

5月7日には、能代支部会員4名が、淳城西小学校を訪問し、手作りマスク100枚を6年生の74名とプラスα分として、寄贈しました（写真2）。公共施設が使用できず、会員の自宅2カ所に5名ずつ参集し、1部屋に2名ずつと人数を絞って、換気とおしゃべり自粛に気を配りながら、マスク作り講習会を開催のうえ、寄贈用マスクを手作りしました。作業は4日間行い、のべ22名が従事しました。

また、毎年、同校の「家庭科クラブ」の講師を依頼されています。そのご縁で、6月4日、家庭科クラブのメンバー16名に、マスク作り講習会を実施し、児童と一緒にマスク作りを楽しみました。

●能代婦人会がマスク寄贈

能代市連合婦人会能代支部の能代婦人会（山崎昌子会長）は7日、淳西小（藤田卓也校長）に会員手作りの布マスクを寄贈した。マスクの品薄状態が続く中、淳西小学区に住む会員有志5人が子どもたちに役立ててもらおうと、4月下旬に布マスクを製作。裁縫やアイロンがけなどを役割分担し、100枚を手作りした。



能代婦人会が手作りの布マスクを淳西小に寄贈

写真2 北羽新報の5月11日（月）のニュース
<http://www.hokuu.co.jp/2020.kiji5/11-15.html#juichi>



紙版にも掲載されました